

# H25シカ年度実行計画の実施結果 管=管理、モ=モニタリング

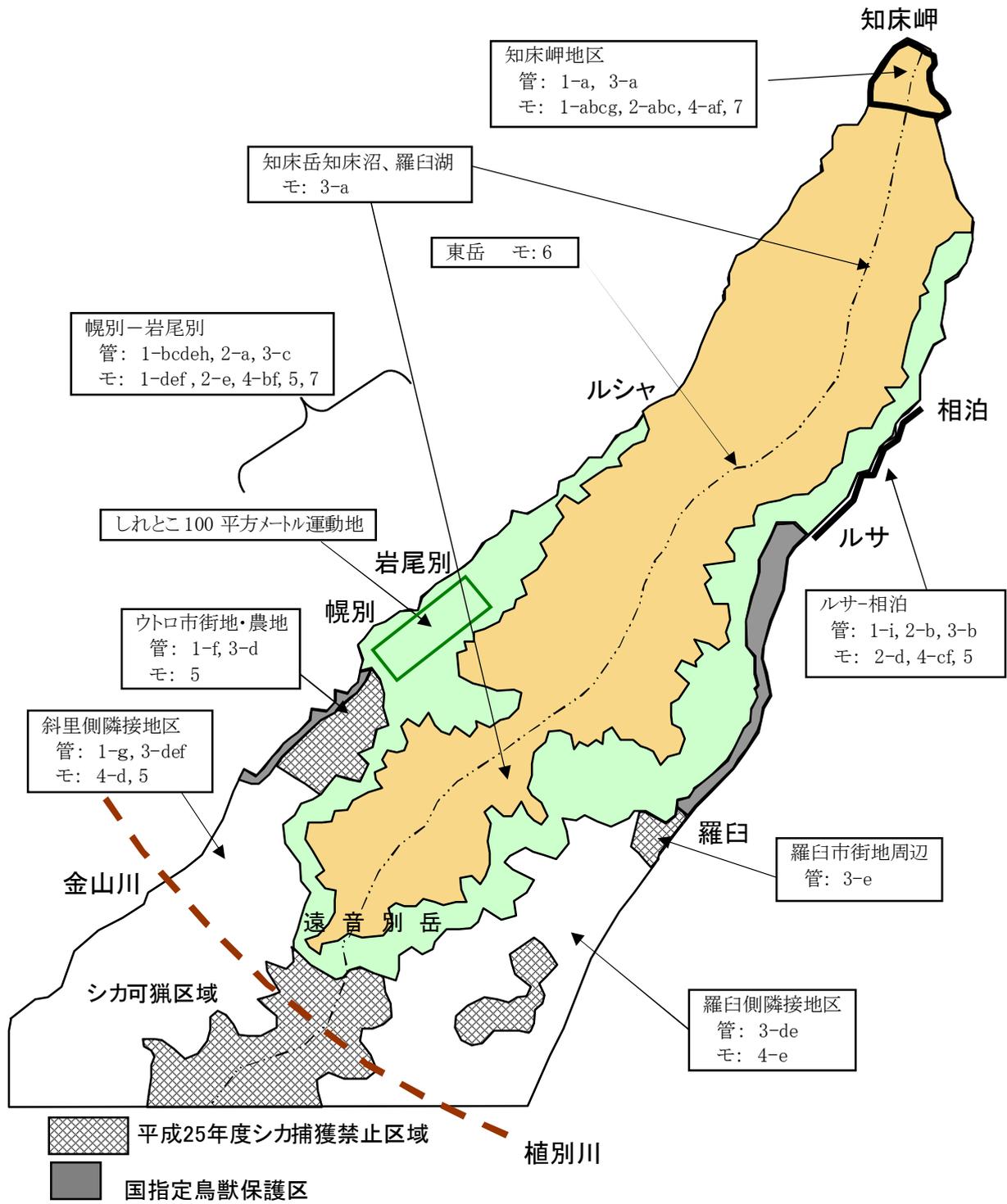


図 1. 関連地域における管理事業・モニタリング事業の位置。番号は本文に対応。  
(対象地が広範に分布するものについては記載せず)

## 管理事業（特=特定管理地区、A=遺産地域 A 地区、B=同 B 地区、隣=同 隣接地区）

### 1. 防御的手法

#### a. 知床岬侵入防護柵管理(特: 環境省・林野庁)

- ・知床岬台地草原部の 3 防護柵については、大きな破損等なし。
- ・風倒木により森林柵(1ha)の一部が破損(8月に補修予定)。

#### b. 幌別侵入防護柵管理(B: 林野庁)

- ・防護柵の破損なし。

#### c. 運動地侵入防護柵管理(B: 斜里町)

- ・既存各防護柵において老朽化した支柱の交換等の補修を実施。
- ・大雪の影響のため、積雪量の多い箇所を中心に一部防護柵のかさ上げを実施。

#### d. 岩尾別川河畔林侵入防護柵設置(B: 斜里町)

- ・岩尾別川河畔の森林化を目的として、河原の未立木地に総延長 273m の防鹿柵を設置(11月)。

#### e. 運動地樹皮ネット管理(B: 斜里町)

- ・劣化したネットの巻き直し等、既存保護木の維持作業を実施。

#### f. ウトロ市街地侵入防護柵管理(隣: 斜里町)

- ・柵内のシカは3月に最大 20 頭程度。

#### g. イチイ遺伝資源保存林侵入防護柵管理(隣: 林野庁)

- ・風倒木により防護柵の一部が破損(7月以降に補修予定)。

#### h. 岩尾別カシワ林侵入防護柵設置(B: 林野庁)

- ・風倒木により防護柵の一部が破損(7月以降に補修予定)。

#### i. ルサ-相泊の試験的侵入防止電気柵設置(B: 羅臼町)

- ・H24年に引き続き電気柵を延長。キキリベツから相泊(ルサ川を除く)までの約 8 km区間の電気柵設置が完了。

### 2. 越冬環境改変

#### a. 運動地森林化作業(B: 斜里町)

- ・防護柵内への広葉樹小苗の植え替え等を実施。
- ・柵内外への大苗の植え替え等を実施。

#### b. 道路法面牧草面積の抑制(環境省)

- ・知床公園羅臼線の道路工事1件について、現地表土による緑化とし、新たな牧草法面を造成しない工法とした。

### 3. 個体数調整

#### a. 知床岬 密度操作事業(特: 環境省)

- ・H26年4月～5月に日帰りで船で計2回岬入りし、計9頭を捕獲。  
流氷明けが遅れたため、捕獲実施時期が例年よりも遅延。

#### b. ルサー相泊地区 密度操作実験(B:環境省)

- ・道道知床公園羅臼線での流し猟式シャープシューティングをH26年1月～4月に10回実施し、計78頭を捕獲。
- ・ルサ川左岸の囲いわなで、H26年1月～4月に計14頭を捕獲。
- ・アイドマリ川左岸の囲いわなで、H26年1月～3月に計116頭捕獲。
- ・3つの捕獲方法により、計208頭を捕獲した。

#### c. 幌別-岩尾別地区 密度操作実験(B:環境省)

- ・岩尾別地区の仕切柵を囲いわなとして使用し、H26年1～4月に計87頭を捕獲。
- ・岩尾別川河口の囲いわなでH26年1～3月に計35頭を捕獲。
- ・幌別川河口の囲いわなでH26年1～3月に計83頭を捕獲。
- ・岩尾別橋から岩尾別川河口までの約0.6kmの通路沿線で流し猟式シャープシューティングをH26年4月に1回実施し、計2頭を捕獲。
- ・3つの捕獲手法により、計207頭を捕獲した。

#### d. 銃による個体数調整(隣: 斜里町、羅臼町)

- ・斜里町ではH25年4月-H26年3月にウトロ高原農地で29頭、H25年4月-9月に半島基部農地で348頭捕獲した。  
H26年4月以降、両地区で捕獲を実施しているが、現在捕獲数は集計中。
- ・羅臼町ではH25年6月、H26年2～5月にかけて、町有林において巻き狩りと流し猟により計227頭を捕獲(羅臼町及び町鳥獣被害防止協議会)。

#### e. 銃器以外による個体数調整(隣: 斜里町、羅臼町、林野庁)

- ・斜里町、林野庁及び株式会社エゾシカファームでは、ウトロ西での囲いわな捕獲についての協定を結び、H26年4月に91頭を捕獲。
- ・斜里町では、ウトロ市街地で吹き矢による捕獲を実施し、H25年6月に1頭を捕獲。
- ・林野庁では、H25年12月～26年5月にウトロ東において囲いわなにより41頭を捕獲。
- ・羅臼町では、H25年6月～H26年5月に市街地周辺で1頭を捕獲。

#### f. 狩猟(中断期間の設定)(隣: 北海道)

- ・斜里町内の隣接地区において狩猟での効率的な捕獲を検討するため、可猟期間に中断期間を設定した。結果は取りまとめ中。

## モニタリング調査(特=特定管理地区、A=遺産地域 A 地区、B=同 B 地区、隣=同 隣接地区)

### 1. 植生回復

#### a. 知床岬 亜高山高茎草本群落侵入防護柵(特: 環境省)

- ・柵設置から9年間が経過し、柵内ではオオヨモギが若干減少、ヤマブキシヨウマは増加。
- ・柵内ではヒロハクサフジやクサフジがほとんど見られなくなり、平成 23 年にピークとなったシレトコトリカブトやアキカラマツ、イブキトラノオは減少した後一定の植被率で推移。
- ・柵外の対照区は依然トウゲブキが優占。昨年回復が確認されたオオヨモギは維持。
- ・柵外の群落高は 63cm と昨年より低かったが、春期の小雨の影響と推測される。

#### b. 同 ガンコウラン群落侵入防護柵(特: 環境省)

- ・柵内では、ガンコウランの被覆面積が顕著に増加。シャジクソウやチシマセンブリの開花株数も増加し、柵設置以降最多となった。出現種数は 43 種と調査開始以降最多。
- ・柵外では、出現種数が 36 種と過去最多となり、群落高も増加。シャジクソウとヒメエゾネギの開花株が顕著に増加するなど、エゾシカの個体数調整による効果が示唆される。

#### c. 同 山地高茎草本群落侵入防護柵(特: 環境省)

- ・柵内ではハマニンニクやエゾゼンテイカ、ナガバキタアザミ等で継続した増加傾向。
- ・エゾノユキヨモギやオオヤマフスマなどは減少。一時期増加傾向したエゾノカワラマツバやハマオトコヨモギなどは低被度となっている。群落高は 125cm で昨年と変わらず。

#### d. 幌別一岩尾別 100 平米運動地各種侵入防止柵内外(B: 斜里町)

- ・5 年毎に調査を行っているカラマツ林内の調査プロットにて、枯死数、生存数、新規加入数等を調査。
- ・防鹿柵内では、広葉樹の天然更新実生が良好に生育。
- ・柵外の一部では広葉樹実生は確認されるものの、すでにトドマツが優占している区画では広葉樹実生は少数に留まった。

#### e. カシワ林内外侵入防止柵内外(B: 林野庁)

- ・H25 年度調査なし。

#### f. 幌別地区侵入防止柵内外(B: 林野庁)

- ・森林の下枝(高さ 0.5~2m)、稚樹(高さ 0.5~2m)及び林床植生について調査。
- ・柵内では下枝被度、稚樹高さともに回復傾向。
- ・柵外では H23 年の調査と同様に下枝、稚樹ともにほとんどない。
- ・林床植生は、柵内で広葉樹稚樹(被度:H13 年 1.1%→H25 年 38.2%)及びマイヅルソウ(被度:H13 年 0.1%→H25 年 8.8%)の回復が続いている。柵外は H23 年と比較して目立った変化はなかった。

#### g. 知床岬地区侵入防止柵内外(特: 林野庁)

- ・森林の下枝、稚樹及び林床植生について調査。柵内は下枝被度、稚樹高さともに回復傾向にあるが、柵外は H23 年の調査と同様に下枝、稚樹ともにほとんどない。

- ・林床植生は、柵内ではマイヅルソウ(被度:H17年0.3%→H25年8.0%)の回復が顕著。オオバナノエンレイソウ(被度:同0.04%→同0.4%)やサラシナショウマ(被度:同0%→同0.8%)も回復傾向。
- ・不嗜好性種の拡大が続いていることもあり広葉樹稚樹全体としてはゆっくりとした回復(被度:同0.8%→同7.4%)。柵外においては、H23年と比較して大きな変化はなかったが、ハルニレの発生を始めて確認。

## 2. 密度操作対象地域

固定調査測線上のイネ科草本の現存量・ササ群落の変化・森林部葉量の垂直分布について調査した。

### a. 知床岬地区 西側林内混合ベルト調査区(特: 環境省)

- ・高さ250cm以下の木本葉量について、2ラインで調査。
- ・平成20年から継続調査している一方のラインでは、これまでほとんど見られなかった高さ150cm以下の葉量が増加。
- ・もう一方のラインでも、平成23年の前回調査と比較して下層葉量は増加傾向。

### b. 同 ササ調査区(特: 環境省)

- ・100mライン3本の18箇所ですササ類などの被度と高さを追跡調査。
- ・ササ類の平均高は継続的な増加傾向。

### c. 同 イネ科草本等調査区(特: 環境省)

- ・簡易柵と金属柵で植生の変化と採餌量を調査。
- ・柵内では、イネ科群落でクサフジが顕著に増加した一方、ナガハグサやハンゴンソウ、エゾイラクサは減少。ササ群落ではササの高さが若干の増加。
- ・柵外では、イネ科群落でクサフジとエゾイラクサが増加。ササ群落ではクサフジが増加した一方ハンゴンソウは姿を消した。
- ・柵内外とも、アメリカオニアザミはほとんど見られない。

### d. ルサー相泊地区における植生・エゾシカ採食圧調査

- ・イネ科牧草を主体とする人工的な植生3箇所です植生及び採食圧調査を実施。
- ・採食量調査の結果は前年と同様、2009年から捕獲圧をかけ続けているルサー地区では採食量が少ないのに対して、あまり捕獲圧をかけていない相泊地区では採食量が多かった。

### e. 幌別-岩尾別地区における植生・エゾシカ採食圧調査

- ・イネ科草本を主体とする4箇所です植生及び採食圧調査を実施。総じて現存量の低下(小雨に起因するものと思われる)が見られたものの、昨年と比較して採食量は少ない傾向。
- ・フレペの滝上部の草地で平成20年に調査された測線を復元して植生調査を実施。エゾシカの増加前に優占種であったと考えられるキリンソウやアサギリソウは見られず、オオヨモギも寡少。H20年と比較して不嗜好性植物であるワラビが顕著に増加し、嗜好性の高いナガバキタアザミ等が減少するなど、近年もエゾシカによる影響が増大していることが示唆。

### 3. 広域採食圧調査

#### a. 高標高植生調査(A: 環境省)

- ・知床岳・知床沼周辺の高層湿原では、採食痕はあるものの、2008年には確認されなかったエゾゼンテイカが確認されるなど、エゾシカによる影響は限定的と推測。低標高の森林では、2008年と比較して林床にシカの不嗜好性植物のミモウモリやシダ類が増加。
- ・羅臼湖周辺では、嗜好性の高い植物が元々少ないこともあるが、シカによる痕跡は寡少。

#### b. 広域採食圧調査(特+A+B+隣: 林野庁、環境省)

- ・森林固定調査区 68プロット(林野庁 58、環境省 10)のうち、エゾシカ個体数調整を行っている3地区を中心に24プロット(林野庁 20、環境省 4)で下枝、稚樹、林床植生等を調査。
- ・高さ0.5~2mの下枝被度は3地区とも前回調査(H23年又は24年)と比較して若干の上昇(例えば知床岬:0.006%→0.043%)。
- ・広葉樹稚樹(高さ0.5~2m)は知床岬のみH23年度と比べて増加(22.2本/ha→100本/ha。他の2地区の稚樹数はゼロ)。
- ・森林植生の回復が徐々に進んでいるが、本来の状態に比べれば非常に少なく(例えば、半島基部の陸志別では下枝被度1.78%、稚樹1258本/ha(H23年調査))、回復にはまだ年数がかかると考えられる。
- ・個体数調整を行っていないルシャ地区のプロットでは、広葉樹稚樹が全く確認されないなど強い採食圧が継続していると考えられた。
- ・土壌浸食について、Ao層やガリーの発達状況に応じて5段階で評価したが、プロット自体が緩傾斜地に設定していることもあり、すべてのプロットにおいて段階1(Ao層が全面を覆っている)または段階2(Ao層の一部が流亡している)であった。

### 4. シカ生息動向

#### a. 知床岬 航空カウント(特: 環境省)

- ・3月3日に実施し、59頭を確認。昨年度の発見数56頭から微増。

#### b. 幌別・岩尾別ライトセンサス(B: 斜里町)

- ・H25年秋は幌別、岩尾別がそれぞれ3.4頭/km、2.0頭/kmと前年同期(4.7、2.4)から減少。百メス比はそれぞれ44.6、35.7となり、前年同期(26.6、26.5)から増加。
- ・H25年春は幌別、岩尾別がそれぞれ15.3頭/km、3.5頭/km(前年同期は8.2、4.8)。百メス比はそれぞれ17.3、13.3となり、前年同期(4.1、1.0)から増加。

#### c. ルサー相泊ライトセンサス・日中センサス(B: 羅臼町、知床財団)

- ・H25年秋のライトセンサスは10月下旬に5回実施、2.5頭/km、百メス比15.6。
- ・H26年春のライトセンサスは4月末~5月上旬に5回実施、6.2頭/kmと前年(13.2)から減少。百メス比は10.2と前年(7.4)より増加。
- ・日中センサスは実施なし。

#### d. 真鯉 日中センサス(隣: 知床財団)

・3月12日に最大472頭(39.3頭/km)、前年最大(517頭)から減少。

e. 羅臼峯浜ライトセンサス(隣: 北海道)

- ・H25年10月24日に猟友会羅臼部会が実施(北海道から(社)北海道猟友会への委託業務)。
- ・牧草地コース4.6頭/km、森林コース0.7頭/km(H24年はそれぞれ5.5、1.9)。

f. ヘリカウント調査(特・B: 環境省)

・H26年3月2～4日の3日間に以下の4地区(遺産地域全域)を調査。  
199群935頭を発見。

- ・知床岬地区: 279頭(2013年比86%増、+129頭)
- ・ルサ-相泊地区: 137頭(2013年比36%減、-78頭)
- ・幌別-岩尾別地区: 292頭(2013年比7%減、-22頭)
- ・ルシヤ地区: 227頭(2011年比63%減、-387頭)

5. シカ自然死亡 ルシヤ・知床岬・幌別-岩尾別・ルサ-相泊・真鯉(全域: 知床財団)

- ・H26年春にエゾシカの自然死体を調査。知床岬、ルシヤは今年度調査無し。
  - ・幌別-岩尾別: 2体
  - ・真鯉: 1体
  - ・ルサ-相泊: 0体
- ・斜里側では他に死因不明が6体あった。

6. シレットコスミレモニタリング調査(A: 環境省)

- ・9月15日に東岳の調査区(2m×20m)内で、シレットコスミレの数と採食痕の有無を調査。
- ・158株が確認され、前年(154株)とほとんど違いはなかった。採食痕はなし。

7. 鳥類相モニタリング調査(A: 環境省)

- ・知床岬地区でラインセンサスと録音センサス、幌別-岩尾別地区で録音センサスを実施。
- ・ラインセンサスでは、既往調査と比較してノビタキ及びシマセンニュウが増加。エゾシカの採食圧によって形成されたイネ科草本群落がこれらに営巣環境を提供しているもの推測。
- ・録音センサスでは、既往のスポットセンサス(目視)の結果と比較して確認種数が少ない傾向。一方、過去に確認の無いウグイス、エゾセンニュウ、シジウカラ等が確認された。
- ・録音センサスは、指標種を特定して継続調査することにより、生態系の回復を把握する指標として活用可能であると考えられた。
- ・今後は5年程度の間隔で継続調査予定。